

ASTOR PIAZZOLLA を聴こう

アストラ ピアソラ 1921~1992 バンドネオン奏者 バンドリーダー 作曲家

ASTOR PIAZZOLLA

1936年一家でマル デル プラタに帰国。当時随一といわれた Vn 奏者
エルビーノ バルダロを聴いて本格的にタンゴ界にはいる。15歳

1946年 自身のオルケスタ ティピカを編成 25歳

楽器編成 Bn4 Vn4 P Ce Cb しかし目新しさに欠け不評で解散

クラシックを学んだがブーランジェ女史に諭され自分の血に目覚める。

ここから彼のモダン派~前衛派への道筋がみえる。

ピアソラとタンゴの歴史上の関連については別の機会を設けることにして、
本日は「1960年代~80年代のレコードを主に彼の音楽、タンゴ観と目指している
タンゴの革新の方向、影響力を自作自演の決定盤でひも解けたらと思います。

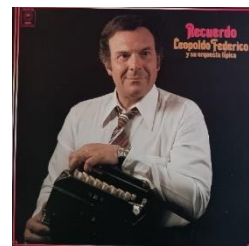
1. Bandoneon の音の魅力 Leopoldo Federico の solo テクニック

・ La Rayuela 1979 2,42

2. 5重奏団へ収束する

8重奏 9重奏 弦楽オーケストラなど実験的試みから自身の創造性
の実現の為編成を高度な 5to に求めた。

メンバーの交代により表現が異なり、ほぼ3期にわかれる。



第一頂点 Bn-A ピアソラ Vn-A アグリ G-O Rルイス P-H ゴシ
ス Cb-K ディアス

・ニューヨークのアストルピアソラ 1965

Vayamos Al Diablo 1,48

Mal Del Plata 70 3,19



第二頂点 Bn-A ピアソラ Vn-A アグリ G-C ティラオ P-O マンシ
Cb-K ディアス

・アストラ ピアソラ オンステージ テアトロ レヒーナ 1970Live

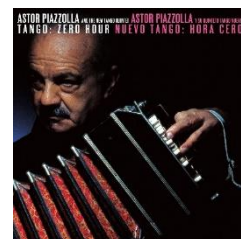
Verano Porteno 3,45

Ratorato de Alfred Gobbi 7,45



第三頂点 Bn-A ピアソラ Vn-F S パス G -O マルビシーノ P-P
 シーグレール Cb-H コンソール

・タンゴ ゼロアワー 1986 NewYork
 Milonga Loca 3,12
 Michelangelo 2,51



・Live1982

LA Ultima Cruda 歌 伴 solo 3.50 テアトロレヒーナ Live1982



・更なる発展へ La Camorra III 11,03

Total 50,35

世界各地でのライブステージでの評判が高くメディアへの録音は多くないが彼の死後ギドンクレメル ヨーヨーマをはじめ楽曲が多く取り上げられたが自作自演に勝るものが見られない。日本のタンゴバンドがこぞってスタイルと曲を取り上げている。小松亮太 三浦一馬 平田耕治 池田達則 鈴木聡など本場仕込みの優れた Bandoneon 奏者がいる。最近では三浦一馬と石田泰尚 vn が新しさをみせている。

以上